## 会議録

会議の名称	第12回加東市地域公共交通活性化協議会
開催日時	平成30年2月27日(火)午後1時30分から午後2時50分まで
開催場所	加東市役所 3階 302会議室

議長の氏名 (会長 土井 勉)

出席及び欠席委員の氏名

## <出席委員>

· 谷舗 尚彦

- 小谷 陽亮
- ・秋山 秀則
- ・水田 節男 (代理)

- ・細見 浩司
- 大谷 健太郎(代理)
- ・畑 敏幸
- ・田中 敏明

- ・竹内 敏郎
- 新谷 裕亮
- ・石井 正敏
- ・友藤 冨士子

- ・藤井 直人
- 平井 沙智子
- ・竹内 圭一
- 土井 勉

- · 兒山 真也
- ・時本 敏行
- ・藤川 憲二
- ・橋本 匡史

- ・吉村 進吾
- 田中 和美
- <欠席委員>
- ・岸部 憲二
- 芹生 昇
- ・難波 安彦
- ・小林 吉人

# 説明のため出席した者の職氏名

・なし

## 出席した事務局職員の氏名及びその職名

- ·協働部企画協働課副課長 下岡 正裕 ·協働部企画協働課主査 白井 隆寛
- ·協働部企画協働課主事 藤崎 純平

### 1 議題等

## (1) 報告事項

- ア 第11回加東市地域公共交通活性化協議会書面協議結果について
- イ 平成29年度地域公共交通確保維持改善事業に関する自己評価について
- (2) 協議事項

ア 加東市の交通施策に係る平成29年度の取組状況及び平成30年度の取組予定につい T

# 2 資料名

- 第11回加東市地域公共交通活性化協議会書面協議結果について(資料No.1)
- ・平成29年度地域公共交通確保維持改善事業に関する自己評価について(資料No.2)
- ・加東市の交通施策に係る平成29年度の取組状況及び平成30年度の取組予定について (資料No.3)
- 3 会議の経過
  - ⇒別紙「第12回加東市地域公共交通活性化協議会・会議の経過」のとおり

平成30年 5月16日

会 長 副会長

発言者 経 渦 / 会議の 発 言 内 容 1 開会 土井会長 2 新委員紹介 新委員 3 報告事項 (1) 第11回加東市地域公共交通活性化協議会書面協議結果について (資料No.1) 事務局から説明 【質疑応答等】 委員 自家用有償旅客運送で、運行の安全を確保するため、普段から行っていること はあるか。例えば、運転手の健康状態を把握するための健康管理やアルコール チェック、適性検査などを行っているか状況を教えていただきたい。 自家用有償旅客運送における運行の安全確保については、毎回、運行開始前に 事務局 運転手の健康状態の確認とアルコールのチェックを必ず運行管理者が行い、それ を確認表に記録している。 また、毎年、安全運転講習を加東自動車教習所にお願いしている。運転手に適 正検査と安全運転の講義を受けてもらい、実際に自動車を運転し、各運転手の特 性を教習員から指導してもらうようにしている。 議長 地域内フィーダー系統確保計画の目標については、以前は過去の実績で最も高 かったところを目標としていたが、その目標が高すぎたので、今回は少し低くし たと説明があったが、今回の目標はどの程度を目指しているか十分な説明がな かったので、もう少し詳しく説明をしてほしい。 それと、利用促進のためにパンフレットを配って、利用者の増加につなげたい という話があったが、パンフレットを配ったり、ホームページで紹介したりする だけでは、利用者の増加の効果は小さいのではないか、これらの取組みだけでは おそらく利用者は増えないと思うが、その当たりの見解も教えていただきたい。 事務局 平成30年度の地域内フィーダー系統確保計画の目標については、神姫バスから 提供いただく乗降者数調査の結果を見ると、極端に多い月、極端に少ない月など 月ごとの変動が大きい路線があったため、単純に過去の実績の平均から目標を定 めてはいない。極端に多い月、極端に少ない月を除外した上で、比較的平準な月 の平均がその路線の平準な乗降者数であると推定し、目標を定めた。ただし、目 標を定める際に、国の補助金の交付対象となるための要件を下回ることがないよ う調整をした。 また、パンフレットを配ったり、ホームページで紹介したり、広報紙に掲載し たりすることで利用者が増加したことを数字で示すのは難しく、これらの取組が 利用者の増加につながっているか分かりにくいというのは、ご指摘のとおり。現 在、地域内フィーダー系統確保計画の対象地域である東条地域の各地区・自治会 に入っていき、地域の方の声を聴くことをしているので、今後は、これも含めた 対応をすることで、利用者の増加を図っていきたいと考えている。 議長 踏み込んだ対応を考えているのであれば、そのことについても今後は資料に記 載していただきたい。 ほかに意見・質問がなければ、「第11回加東市地域公共交通活性化協議会書面 協議結果」について、報告を終わらせていただく。

(2) 平成29年度地域公共交通確保維持改善事業に関する自己評価について (資料No. 2)

事務局から説明

#### 【質疑応答等】

委員

1日当たりの利用者数がなかなか増えない、目標に達しない原因について、アンケートをとってもよく分からない場合があるが、乗務員に聞くと分かる場合がある。乗務員は、今まで頻繁に利用されていた方が入院したことや、利用者からこういう時間帯にこういう便があったら利用しやすいといった声をよく分かっている。提案として、バスの乗務員にヒアリングしてはどうか。

議長

バスの乗務員の方からそういう提案をいただけるのは大変うれしい話。ただし、勤務時間中の休憩時間にヒアリングを実施するのは、乗務員の皆さんに負担をかけることになるのではないか。

委員

それは大丈夫。乗務員は、普段から利用者と会話する機会があり、その会話の中で利用者の雰囲気や様子が分かることがある。これを生かしていただければと思う。

議長

大丈夫であれば、ぜひ機会をつくって乗務員の方へのヒアリングを実施してい ただきたい。

委員

今回の資料のなかで、「見直し基準」という言葉がいくつか出てくるが、資料 No.1に出てくる見直し基準と資料No.2に出てくる見直し基準の違いは何か。

事務局

資料No.1に出てくる見直し基準は、平成30年度地域内フィーダー系統確保計画の見直し基準であり、資料No.2に出てくる見直し基準は、平成29年度地域内フィーダー系統確保計画の見直し基準である。年度が異なるので、数値が変わっている。

議長

資料No. 2に出てくる「作成中の公共交通ガイドブック」はどのようなものか。 また、いつの年度の予算で作成するものか。

事務局

平成29年度の予算で作成する。作成中の原稿を元にしたサンプルがあるので回覧させていただく。

議長

この公共交通ガイドブックにはダイヤ情報も載せるのか。

事務局

3月にJR西日本で、4月に神姫バスでそれぞれダイヤ改正があると聞いている。 それらのダイヤ改正を反映したものを載せる。

議長

路線はあまり変わることはないが、ダイヤは毎年変わる可能性があるので、今年度よいものが完成したが、ダイヤ改正があり、来年度以降には使えないものになるということがよくある。ホームページに最新の情報を載せても、なかなか見てもらえないことがあるので、毎年度、最新の情報を掲載したものを作成していく方がよい。予算の問題もあるので、市のお金だけではなく、広告を載せるなど民間のお金も活用することも検討し、常に最新の情報を載せたものを継続して作成できる仕組みを考えていただきたい。

委員

4月1日から高速バスの停留所の名称が、「東条」が「高速東条」に、「社」が「高 速社」に変わる。公共交通ガイドブックに反映していただきたい。

事務局

反映する。

委員

資料No. 2別添について説明がなかったので説明をお願いしたい。

事務局

資料No. 2別添については、資料No. 2の中の平成29年度地域内フィーダー系統確保計画の事業評価と、資料No. 3の中の加東市の交通施策に係る平成29年度の取組状況を記載したものとなっている。内容が重複するため、説明を割愛した。

議長

資料No. 2別添に記載していることについても積極的に取り組んでいただきたい。

ほかに意見・質問がなければ、「平成29年度地域公共交通確保維持改善事業に 関する自己評価」について、報告を終わらせていただく。

## 4 協議事項

(1) 加東市の交通施策に係る平成29年度の取組状況及び平成30年度の取組予 定について(資料No.3)

事務局から説明

# 【質疑応答等】

委員

タクシーの有効活用に向けた取組で、1度に使用できる福祉タクシー券の枚数の上限を5枚に設定したとあるが、タクシーの乗務員からの報告では、利用者の声として「不便になった。」、「以前の方が使いやすかった。」という意見をたくさんいただいている。

議長

このことについて、市の方でも利用者の意見を聞かれているか。

事務局

「福祉タクシー券5枚では目的地まで行けない。」「自分のお金を追加で支払う必要が出てきた。」などの利用者からの意見を福祉部局で聞いている。ご指摘のとおり、利便性が低下したという声をいただいている。ただし、1度に使用できる福祉タクシー券の枚数に上限を設けた理由は、1度に1年間分を全て使ってしまうことを防ぐためになる。福祉タクシー事業の目的は、外出支援にあるので、福祉タクシー券を複数回に分けて使っていただき、外出する機会を増やしてほしいという市の考えがある。

議長

市として利用者に制度の趣旨をしっかり説明する必要がある。今後、市の考えを伝えることにも取り組んでいただきたい。

委員

高速バスの一層の利便性向上による定住化・交流の促進で、これは地域性を生かした取組ができると思う。バスとタクシーは、利用者の獲得という部分で競合することがあるが、そうではない1つの例として明石の深夜バスがある。当初、深夜バスを走らせるとタクシーの利用者が減少すると心配の声があったが、実際、深夜バスを走らせるとタクシーの利用者は減少しなかった。同じように、高速バスの一層の利便性向上をすることで、タクシーの利用も増えていくのではないかと思う。地域の特性を生かした公共交通を維持するには大変有意義な取組だと思う。

議長

バス事業者にアプローチするだけではなく、バスターミナルの整備やパーク・アンド・ライドなども含めて市とバス事業者との協議の場を継続的に設けていくことも検討いただきたい。

委員

平成30年度から市の最上位計画である総合計画の第2次が始まる中で、組織の見直しを行っている。これまで、公共交通については、係の中の一事業という位置付けであったが、平成30年度からは係の1つという位置づけに格上げをする。市としても公共交通について体制を強化して取り組んでいくので、委員の皆さん

には引き続きご協力をいただきたい。

議長

体制を強化し、取組をより充実させるということで、引き続きしっかり取り組んでいただきたい。

議長

地域公共交通に関する情報提供、PR施策の展開で、公共交通ガイドブックを単に配布するだけではなく、このガイドブックの最終ページにある「マイ時刻表を作成しよう!!」を使ってもらうための動機付けをしっかりやっていただきたい。公共交通ガイドブックを配布したことが、どのぐらい公共交通の利用促進につながったか、効果を確認していかないと、改良するヒントが得られないので、やりっ放しにならないようにしていただきたい。

交通事業者のCSR活動による利用促進で、バス乗車体験イベントを実施し、バスに親しみを持ってもらうことはよいが、利用促進を目的としているので、どのぐらい公共交通の利用促進につながったか、効果を確認する必要がある。日本中でバスの体験乗車や乗り方教室をやっているが、そのことがどのくらい公共交通の利用促進につながったか、効果を確認している事例は少ない。ぜひ、神姫バスと協力し、どういう効果があったか確認していただきたい。

地域の主体的な取組による移動手段の拡大や各地区・自治会に入っていき地域の方の声を聴くことは、市にとって非常に大きな一歩を踏み出すことになるので、ぜひ頑張っていただきたい。

議長

ほかに意見・質問がなければ、「加東市の交通施策に係る平成29年度の取組状 況及び平成30年度の取組予定」について、承認いただきたい。

- 加東市の交通施策に係る平成29年度の取組状況及び平成30年度の取組 予定について承認

議長

今後、実施の段階で、様々な意見等が出てくると思うが、真摯に受け止め、取り組んでいただきたい。

## 5 その他

・次回協議会予定 事務局から説明

## 【会長意見】

議会広報を見せていただいたが、公共交通について、議員の皆さんと理事者の皆さんと意見が少しずれているように思う。お互い議論がかみ合うよう、よりよい話し合いをしていただきたい。そして、市の公共交通施策が一歩でも二歩でも進んでいくよう取り組んでいただきたい。

#### 6 閉会 石井副会長